

高齢者のペット飼育支援

高齢者のペット飼育を支援する動きが広がっている。体が弱った飼い主宅を訪問して世話の手伝いをしたり、飼い主の施設への入所や死亡時の対応を準備したり、といった活動だ。

兵庫県尼崎市のNPO法人「C.O.N」は野良猫に不妊・去勢手術をして元の場所に戻し、ボランティアが世話をする地域猫の推進など、ペットを巡る問題の解決を図る活動をしている。

20年に始めたのが「高齢者とペットの安心プロジェクト」だ。相談、見守り、もしもに備える、という3

つの支援をしている。定期は、緊急連絡先を記入するのに相談会を開くほか相談専用の電話を開設。見守りでは、ペットの健康状態を観察し、清掃や餌やり、ペット用品の買い出しなどのサポートをしている。独り暮らしの人向けに無などを記すチェックシートを作り、ケアマネジャーの協力を求めて配布してもらう計画だ。



飼い主が亡くなった犬の面倒を近所の女性やNPO法人C.O.Nのメンバーがみている

動物にも「もしも」の安全網

活動をしながら高齢者のペットの問題に直面することが増えた。理事の本田みつ子さんは「地域猫の問題などでは行政の動物愛護担当と話してきたが、最近福祉の担当の方とやり取りすることが多くなっている」と話す。独り暮らしの高齢者が、ペット飼育を理由に施設への入所や入院を断る。飼い主の健康悪化でペットも病気になる。こうしたケースが出てきているという。

8月下旬、見守り活動に同行させてもらった。迷惑はかけられないから、と飼育を諦める高齢者は多い。ただ、高齢者のペット問題に取り組んできた大阪市のNPO法人代表、吉本由美子さんは「万一の時の備えが充実すればその風潮も変わるのでは」と語る。高齢化が一層進む社会で、人もペットも幸せになれるセーフティネットづくりを考えたい。

トを作り、ケアマネジャーの協力を求めて配布してもらう計画だ。

活動の中で高齢者のペットの問題に直面することが増えた。理事の本田みつ子さんは「地域猫の問題などでは行政の動物愛護担当と話してきたが、最近福祉の担当の方とやり取りすることが多くなっている」と話す。独り暮らしの高齢者が、ペット飼育を理由に施設への入所や入院を断る。飼い主の健康悪化でペットも病気になる。こうしたケースが出てきているという。

8月下旬、見守り活動に同行させてもらった。迷惑はかけられないから、と飼育を諦める高齢者は多い。ただ、高齢者のペット問題に取り組んできた大阪市のNPO法人代表、吉本由美子さんは「万一の時の備えが充実すればその風潮も変わるのでは」と語る。高齢化が一層進む社会で、人もペットも幸せになれるセーフティネットづくりを考えたい。